

小樽の夜 松下幹生

小樽を訪ね 出会った二人
何もない 何も知らない
白紙のまま 連れ添う2人
夜の香りに 包まれて
そぞろ歩きの 運河沿い
潤む橋の灯 眺め行き
2人の足音 遠ざかる

酒場の重い 扉を肩で
押し開く コートの男
女の連れは 不安げな目で
煙りに霞む 店内を
戸惑いながら 見詰めてる
席に導く 男の手
促されるまま カウンター

小樽の夜を 楽しむ為の
今夜だけ 話相手を
みつける為に 運河の端で
寂しげな娘を 探してた
うつむき歩く ブーツの娘
声を掛けると 見上げた目
憂いが漂う 小町顔